

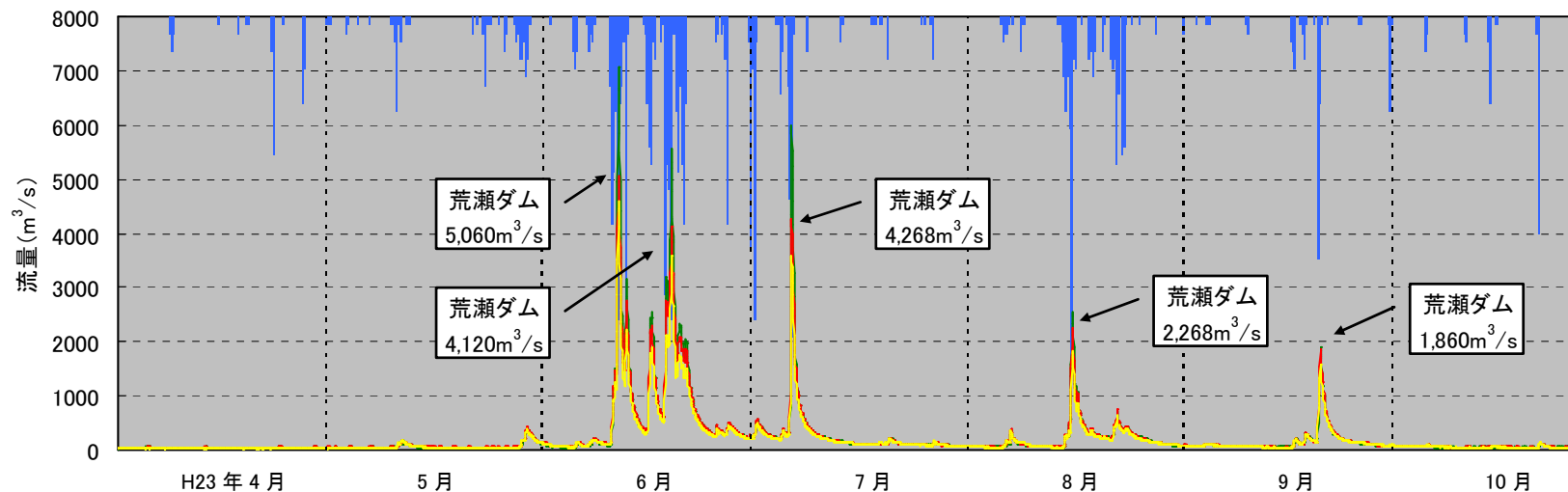
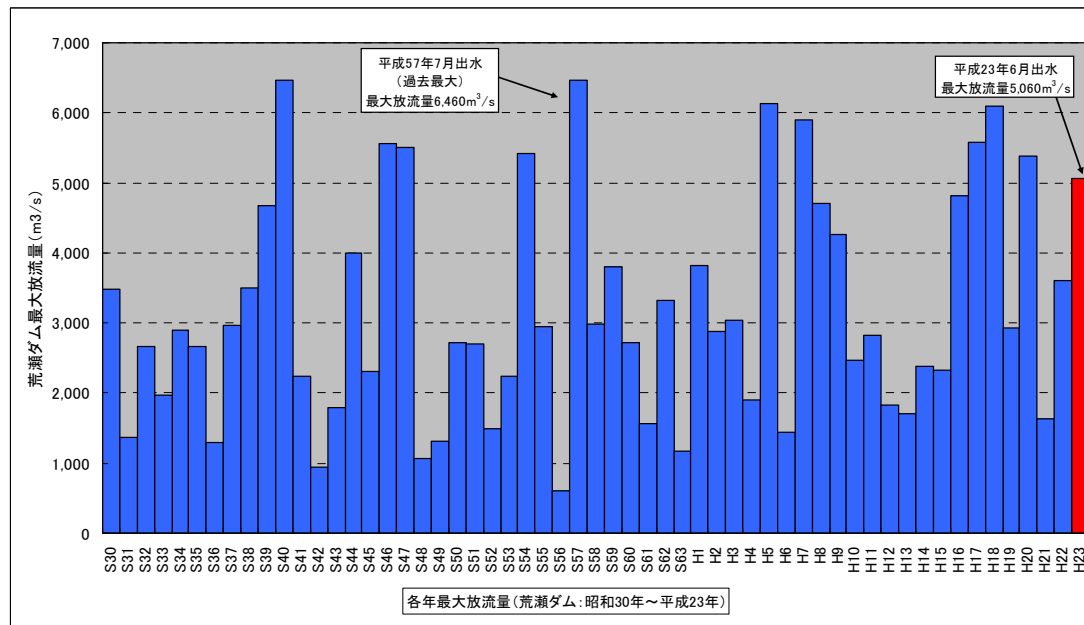
モニタリング調査について

平成24年7月6日
熊本県企業局



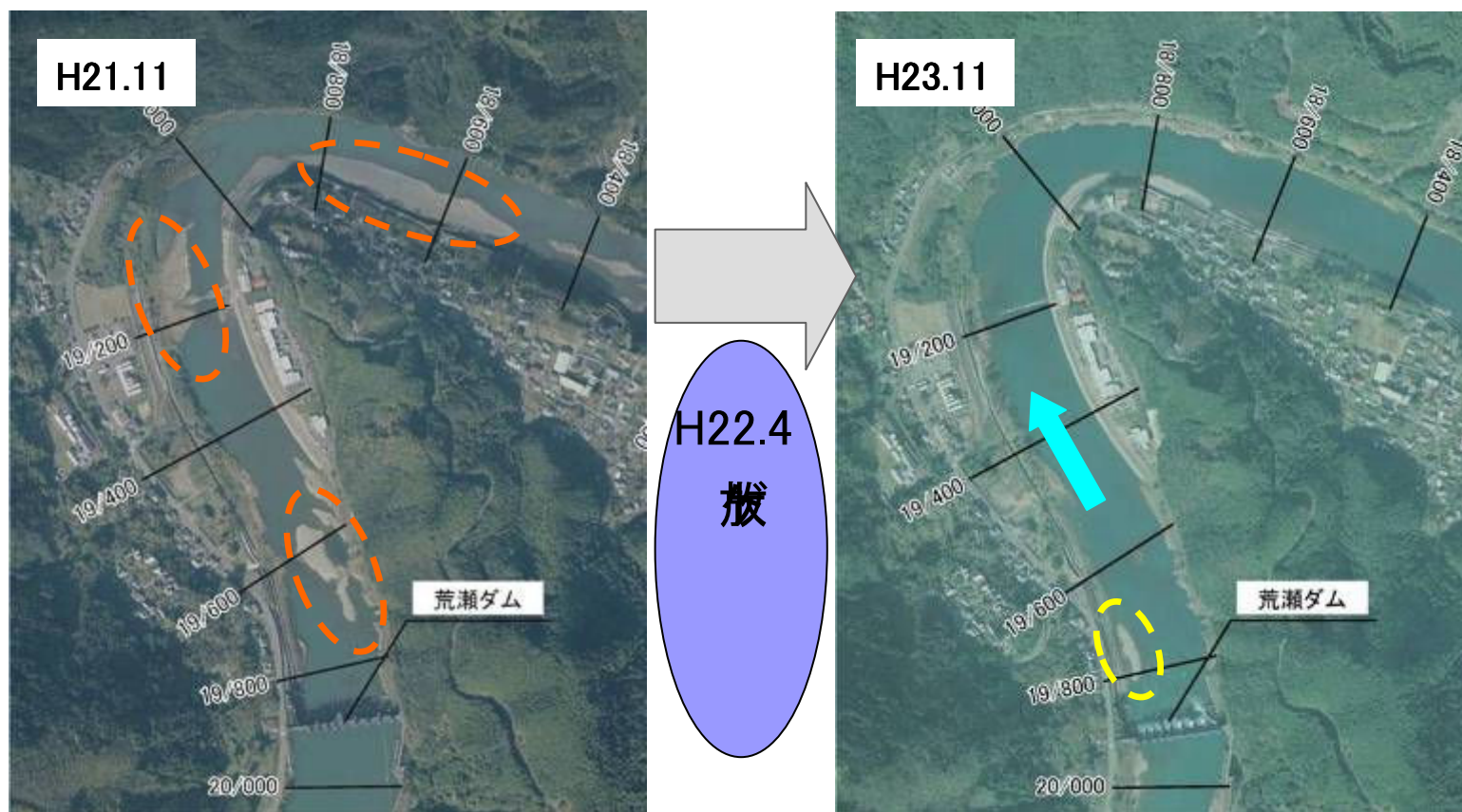
モニタリング調査結果

- 平成23年度は、5千 m^3/s 台が1回、4千 m^3/s 台が2回発生。



減水区間(ゲート開放により流水に回復する区間)

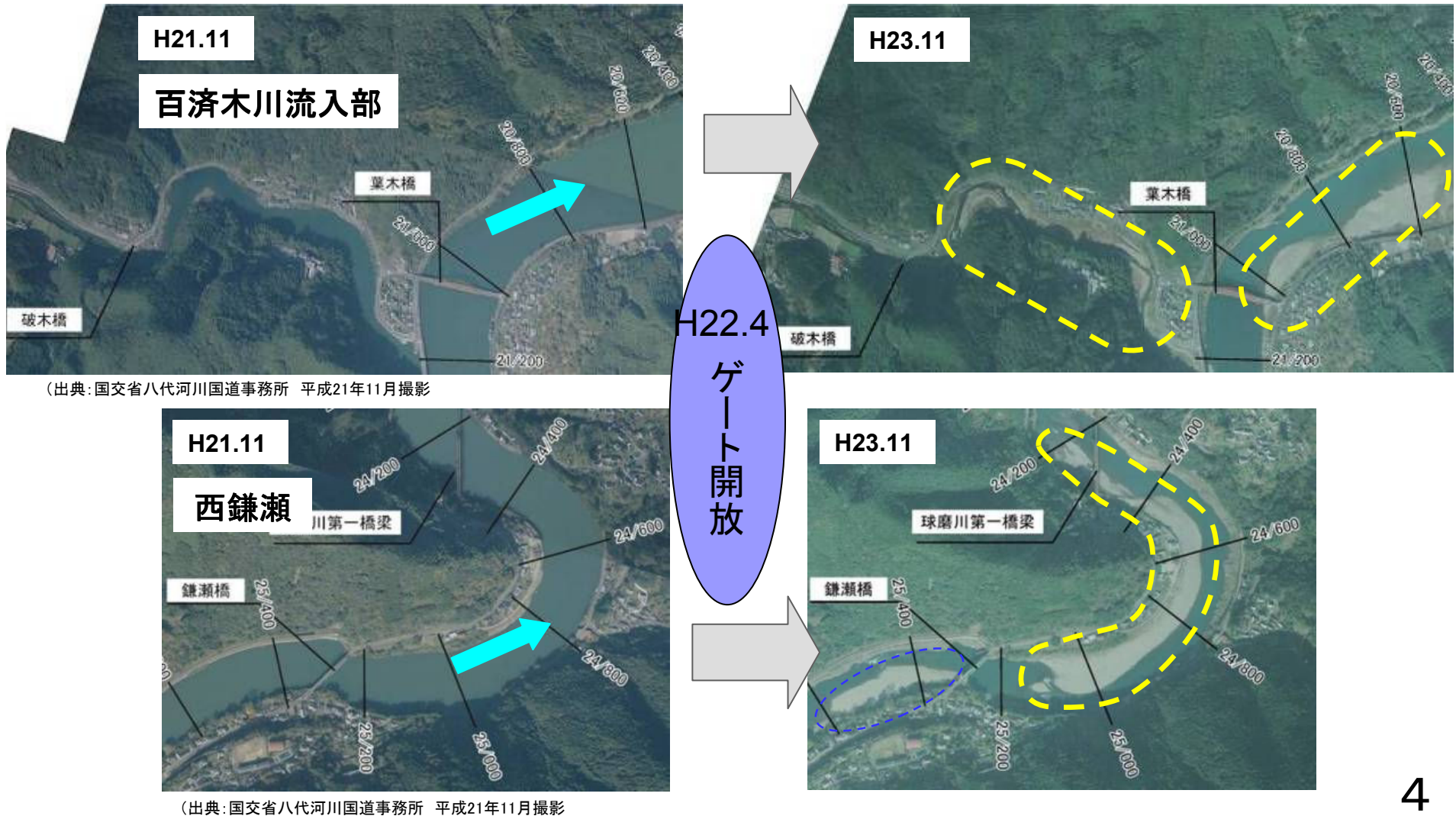
- 減水区間は水位が上昇している。
- 荒瀬ダム直下流左岸は、砂州が堆積傾向である。



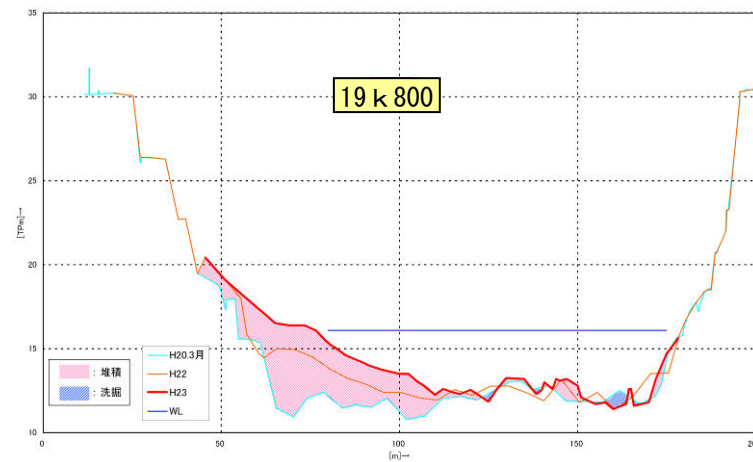
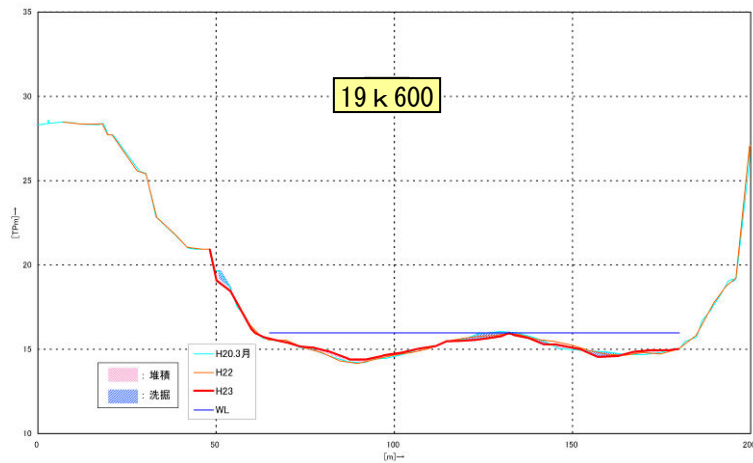
(出典:国交省八代河川国道事務所 平成21年11月撮影)

流水回復区間(ゲート開放により湛水が流水に回復する区間)

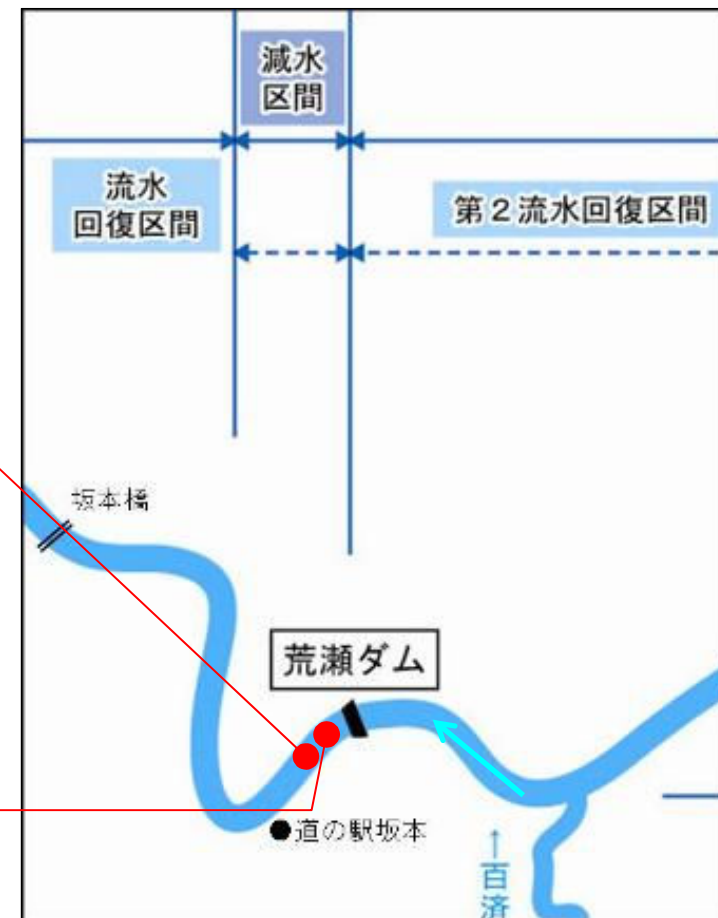
- 流水回復区間は、砂州が新たに露出・拡大。



- 荒瀬ダム直下の左岸側では、堆積が見られる。

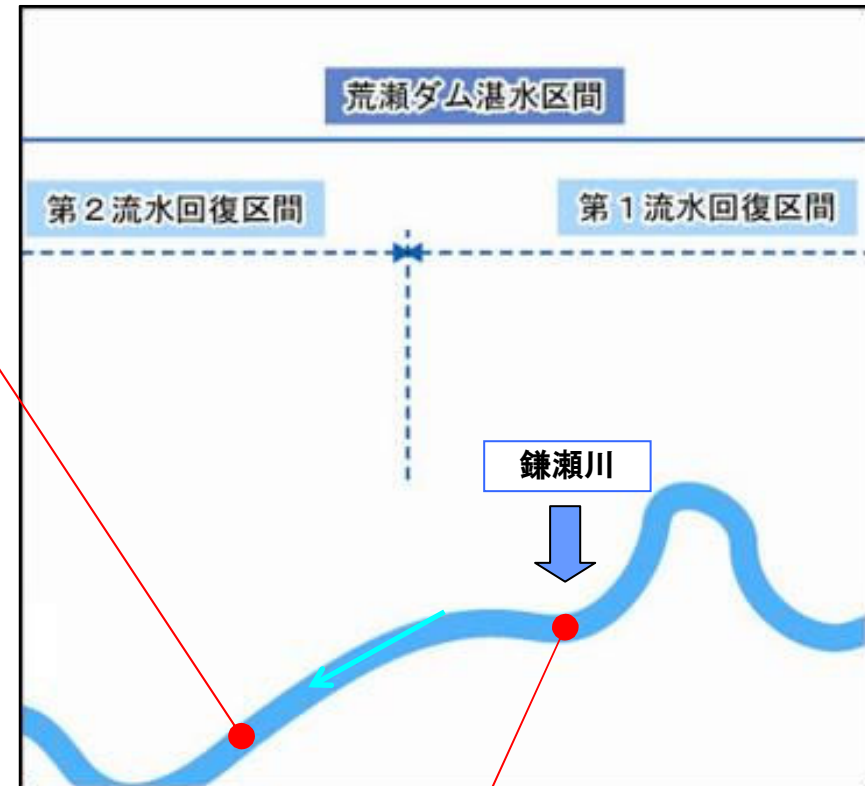
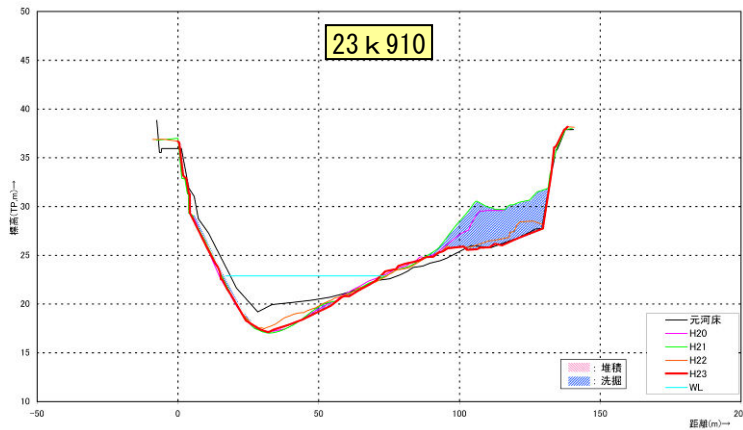
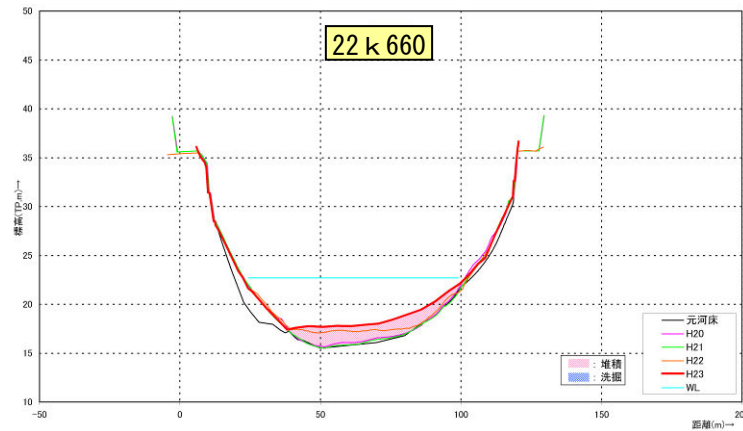


②荒瀬ダム直下流

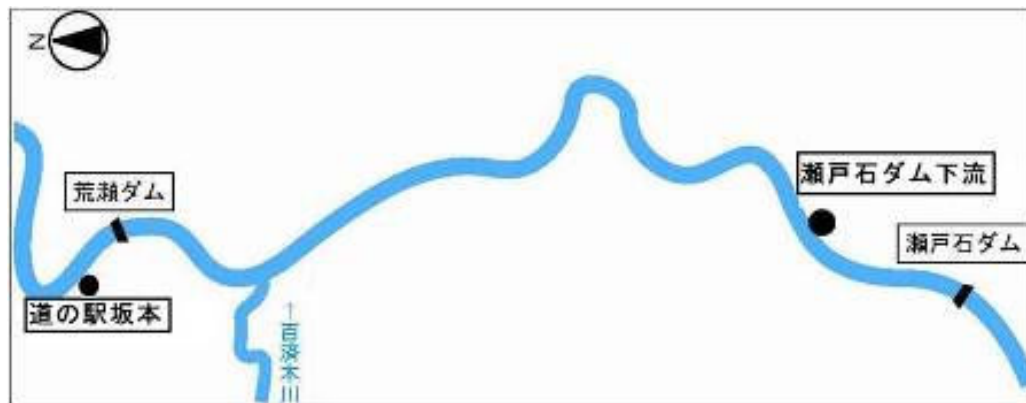


- 第一流水回復区間で洗掘、第二流水回復区間で堆積が見られる。

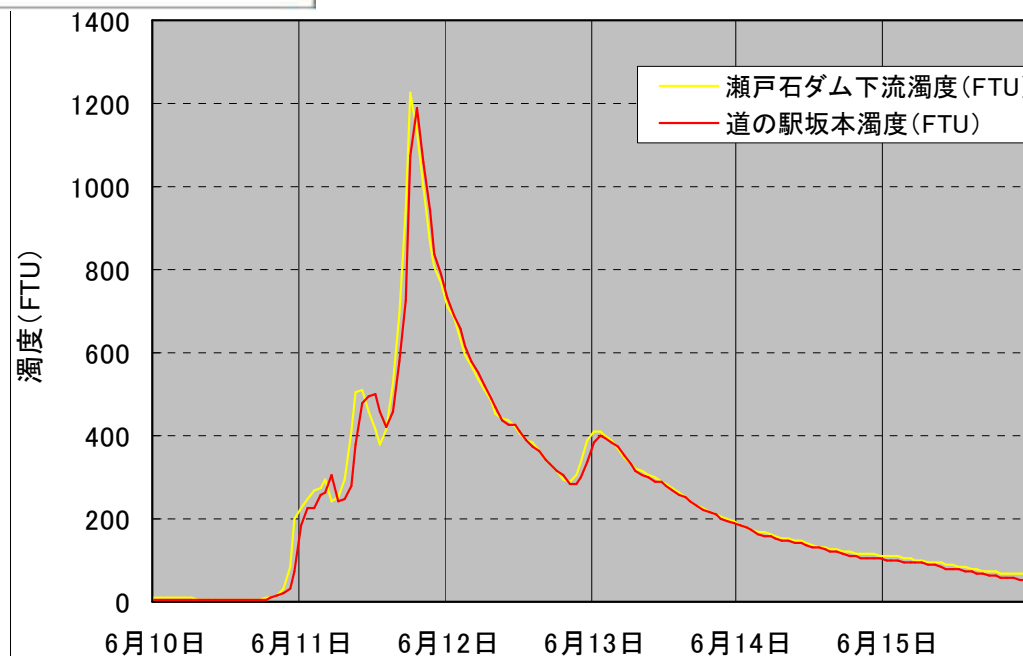
④鎌瀬川合流点地点



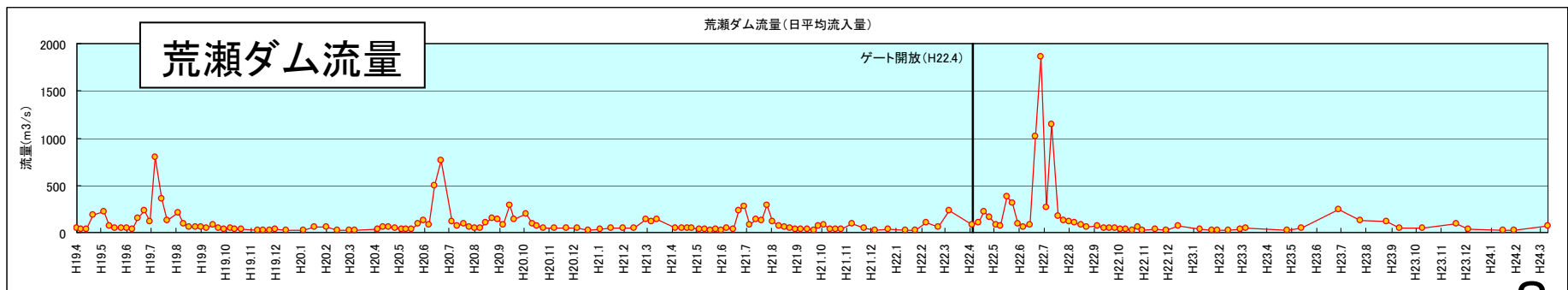
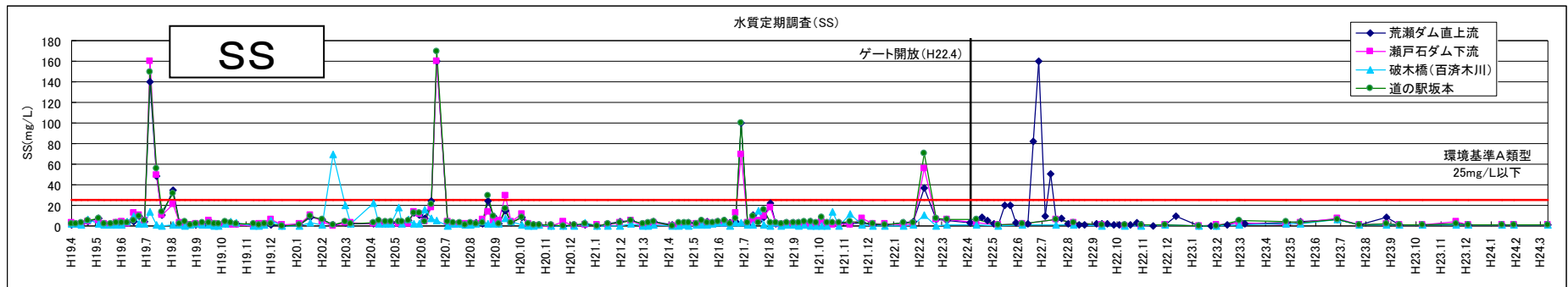
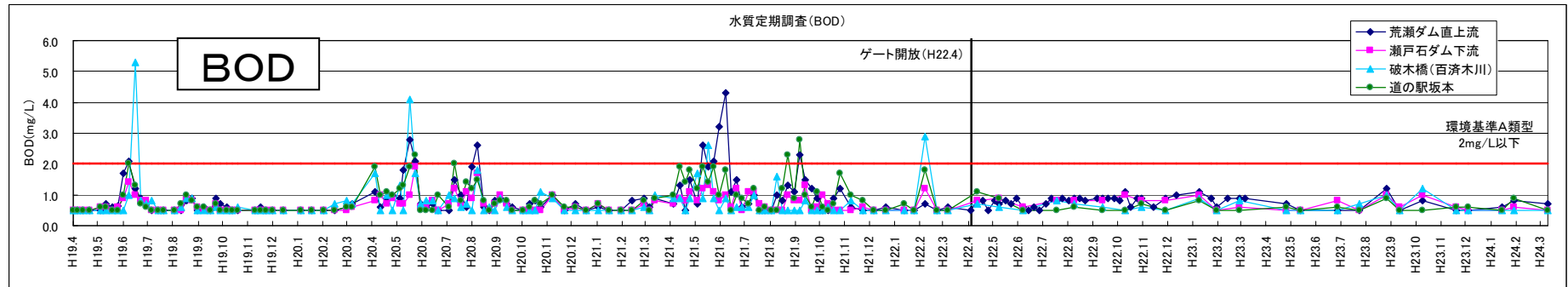
- 出水時(6月11日)に、ダム上下流の濁度に差はない。
- ダム貯水池の堆積土砂の影響は特に見られなかった。



6月11日付近の濁度

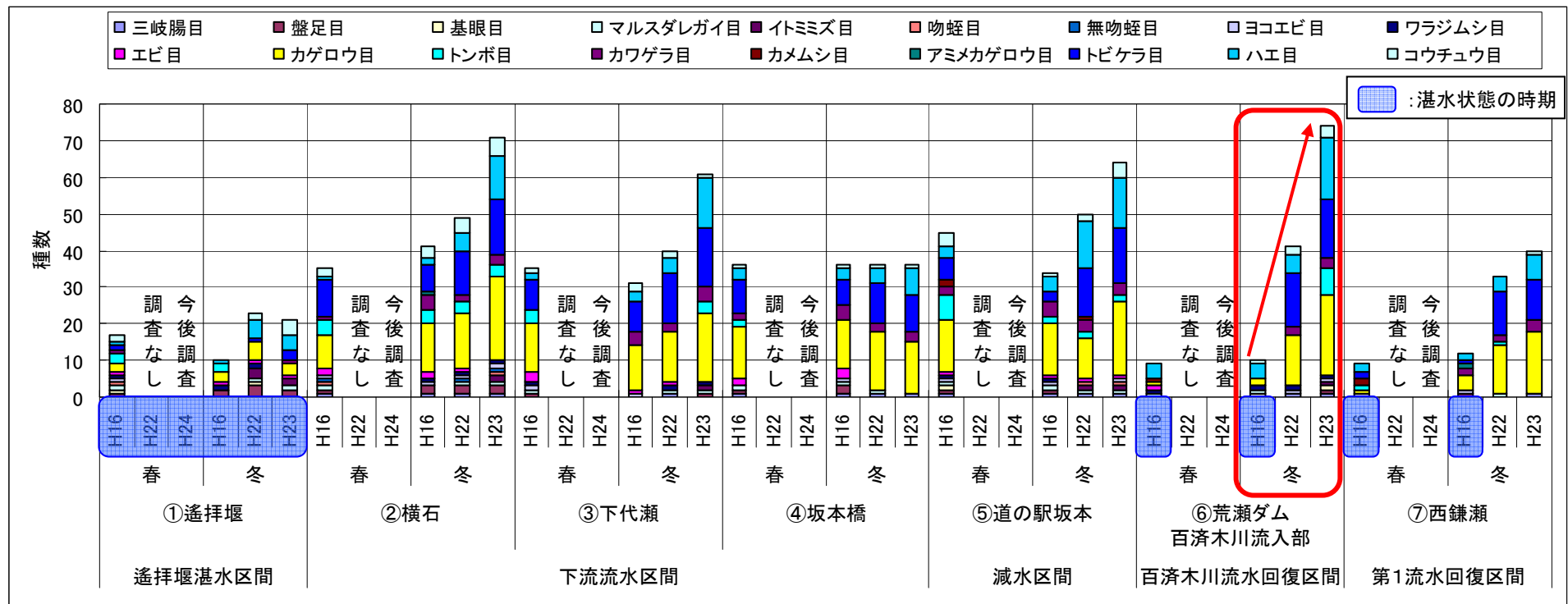


■ 環境基準内(河川A類型)で、ほぼ安定的に推移。

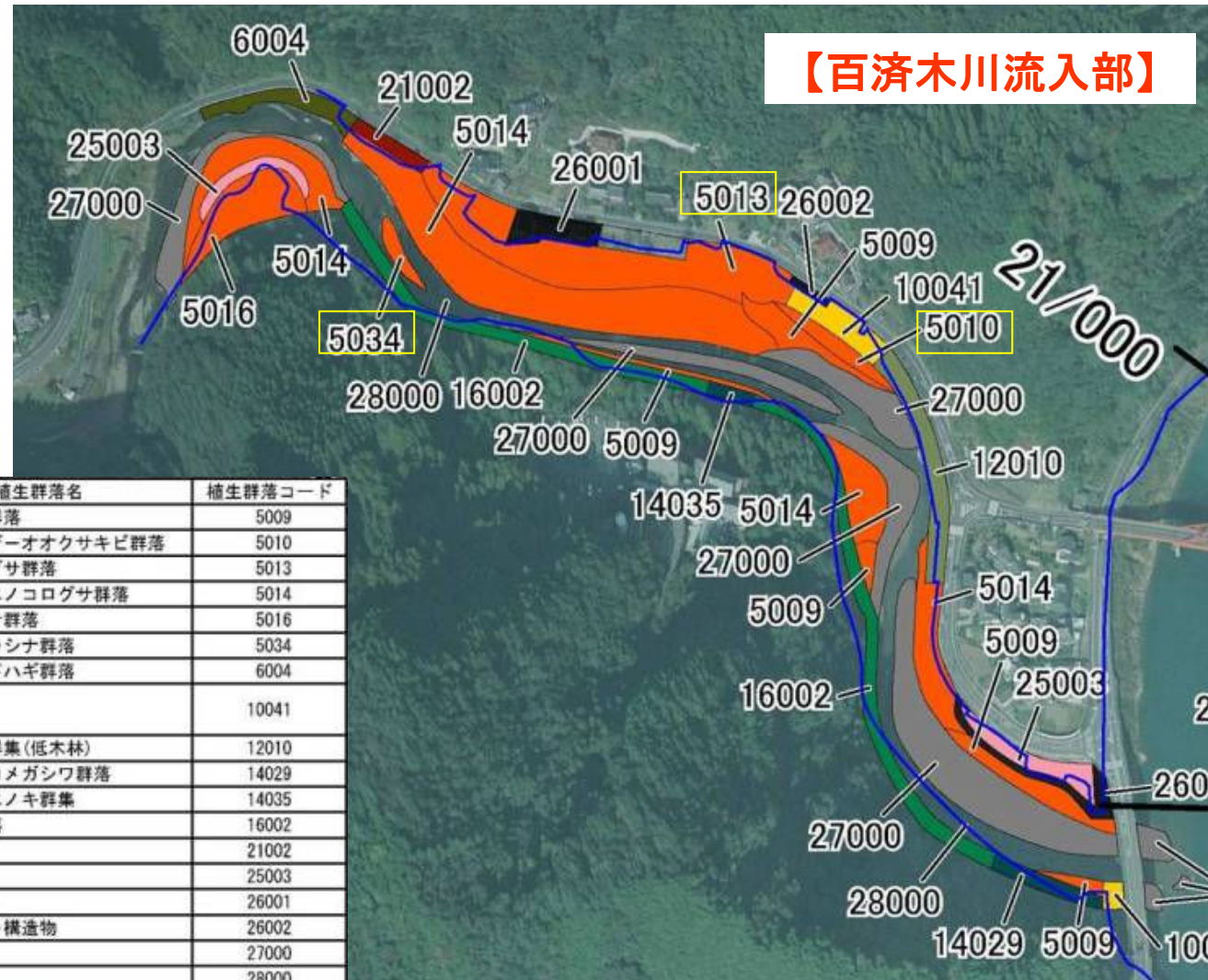


■ 百済木川流入部では、増加傾向である。

底生動物の全確認種数



- 百済木川流入部は、ゲート開放により陸上となったところに、植物の繁殖が見え始めている。



色見本	基本分類名	植生群落名	植生群落コード
[Orange]	一年生草本群落	ヤナギタデ群落	5009
		オオイヌタデ-オオクサキビ群落	5010
		コセンダングサ群落	5013
		メヒシバ-エノコログサ群落	5014
		オオブタクサ群落	5016
		セイヨウカラシナ群落	5034
[Green]	多年生広葉草原	ヨモギ-メドハギ群落	6004
[Yellow]	単子葉 草本群落	ススキ群落	10041
[Light Green]	ヤナギ高木林	シロヤナギ群落(低木林)	12010
[Dark Green]	落葉広葉樹林	ヌルデ-アカメガシワ群落	14029
		ムクノキ-エノキ群落	14035
[Dark Green]	常緑広葉樹林	アラカシ群落	16002
[Red]	果樹園	果樹園	21002
[Pink]	グラウンド等	人工裸地	25003
[Black]	人工構造物	構造物	26001
		コンクリート構造物	26002
[Grey]	自然裸地	自然裸地	27000
[Blue]	開放水面	開放水面	28000

- ダム撤去工事前の現状を把握するために粉じん・騒音及び振動を測定。

粉じん

最大で**3.6 t/(km²・月)** 基準:10 t/(km²・月)以下

騒音

最大で**67.3dB** 基準:85dB以下

振動

最大で**27.3dB** 基準:75dB以下

モニタリング調査計画

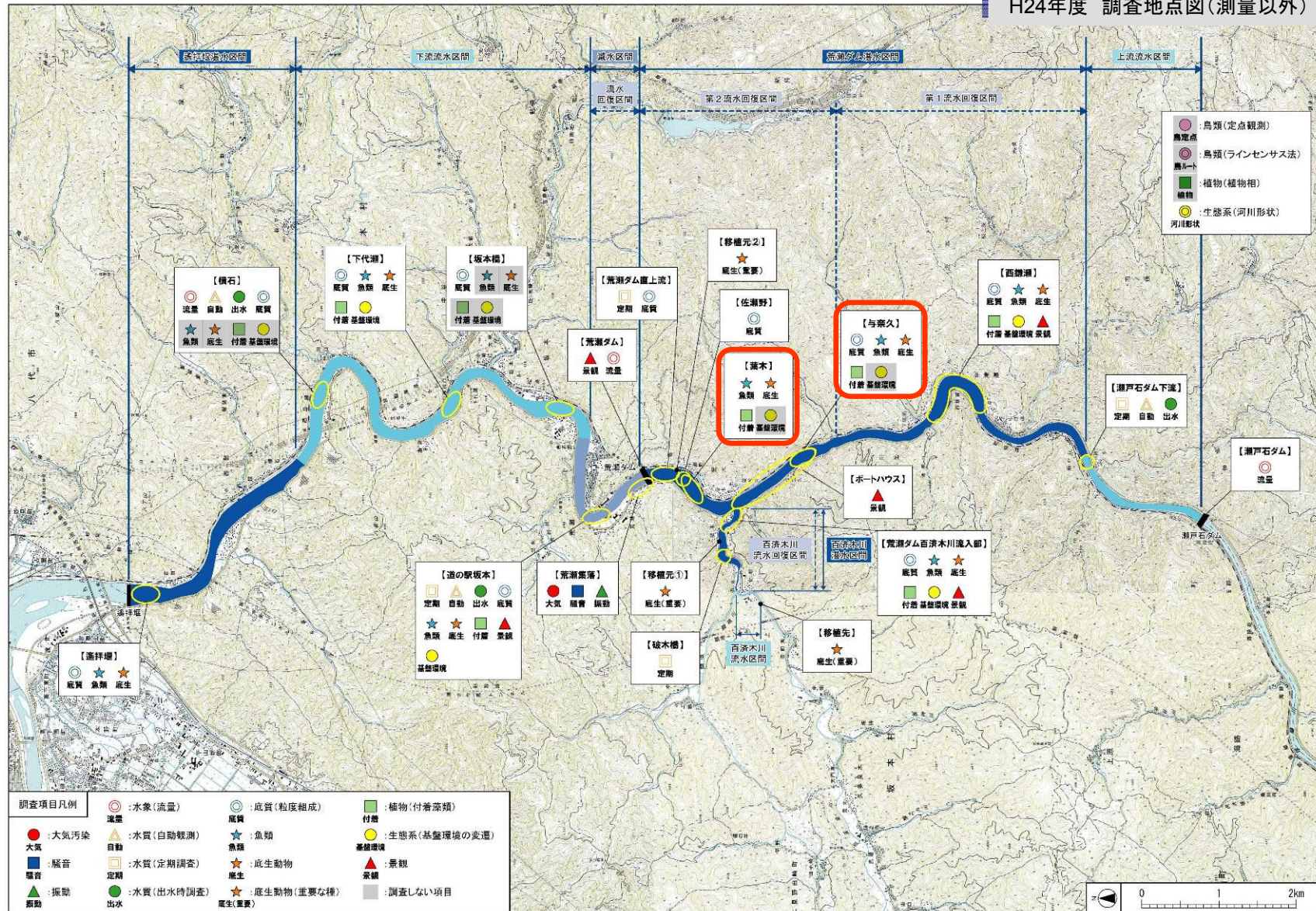
■ 調査項目（平成24年度、平成25年度）

調査項目		分析・評価方法
水象	流量	■最大流量の状況等
景観		■景観の経年変化
河川形状	縦断形状、横断形状	■河川形状の経年変化
水質	出水による濁り等	■濁水の流出状況等
	pH、濁度、BOD等	■水質の経年変化等
底質		■代表粒径の分布状況等
動物	魚類	■回遊性魚類の種数等
	底生動物	■河岸の浅瀬に生息する種の種数等
植物	付着藻類	■クロロフィルaとフェオフィチンの比等
	植物	■植物の分布状況等
基盤環境		■基盤環境の変化
粉じん、騒音、震動		■工事による粉じん等の発生状況

1 全体調査計画

■ 第2流水回復区間(与奈久、葉木)を前倒しで平成24年度から実施

H24年度 調査地点図(測量以外)



※この地図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図(坂本、中津道)を背景図として使用したものである。